

信州大学サポーターズクラブメルマガ第100号 2021年11月30日

信州大学サポーターズクラブ

メ | ー | ル | マ | ガ | ジ | ン | 第 100 号 |

信州大学サポーターズクラブ事務局

2021年11月30日

..... 毎月月末に配信しています

☆-----☆
今回で本メールマガジンも第100号となりました。
今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。
☆-----☆

【 INDEX 】

シンダイ百科

信大からのお知らせ

信州の風景

■■■■■■■■■■ 【シンダイ百科】 ■■■■■■■■■■

『信州大学山岳会』

をご紹介します！

信州大学山岳会は、本年度で72年目を迎える伝統ある団体です。1年生から大学院生まで10人が在籍し、全国の大学生クライマーの交流の場を作ろうという活動もしています。山岳会の精力的な活動について、経法学部の竹田さんにお話を伺いました。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

■■■■■■■■■■ 【信大からのお知らせ】 ■■■■■■■■■■

連続講演会「防災と水環境」

が開催されます

信州大学工学部水環境・土木工学科主催の講演会が全8回で開催されます。豪雨による大水害、新たな化学物質による水環境汚染問題など「防災と水環境」について専門家の方々が講演されます。参加方法としては信州大学工学部キャンパスでの参加（長野市在住・勤務の方）又はオンライン参加を選べます。以下のページから希望の回の参加登録サイト URL をクリックしてください。

※第1回は開催済みのため、第2回からの参加申込が可能です。参加費は無料です。

○詳細はこちら

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering/department/civil/news/2021/11/2.html>

災害アーカイブ展

「僕の私の災害の記憶」

が開催されます

これまでに長野県内で発生した災害を振り返る災害アーカイブ展です。身近なところから災害に備え、防ぎ、減らすことを改めて考えてみませんか。12月12日（日）にはワークショップ「みんなで作る災害年表」が開催されます。参加者が記憶に残っている災害を付箋に記入してオリジナルの年表を作成します。参加費は無料です。

○詳細はこちら

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/bousai/event/2021/11/post-22.html>

■■■■■■■■■■ 【信州の風景】 ■■■■■■■■■■

布引山 釈尊寺の布引観音堂

今回は釈尊寺の布引観音堂と布引山の紅葉をご紹介します。釈尊寺は天台宗の寺院で、信濃三十三観音霊場の第29番札所に指定されています。

○詳細は次ページ以降をご覧ください。

メルマガのバックナンバーはこちらから

<http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/mail/>

『信州大学サポーターズクラブメールマガジン』
編集・発行/信州大学サポーターズクラブ事務局
長野県松本市旭 3-1-1

【 Mail 】 koyukai@shinshu-u.ac.jp

【 H P 】 <http://koyukai.shinshu-u.ac.jp/>

【 F B 】 <https://www.facebook.com/shindai.koyukai>

2021.11.30



信州大学サポーターズクラブ【シンダイ百科】第100号

—今回は信州大学山岳会の竹田さんにお話を伺いました。

Q1)団体の概要を教えてください。

A)信州大学山岳会（以下、山岳会）自体は本年度で72周年目（＝信州大学創設来）となりますが、その活動は旧制松本高等学校時代から続くもので、100年以上の歴史があります。本年度は1年生から大学院生まで10人が在籍して活動しています。会員の所属学部は様々ですが、拠点は松本にあり、登山前などはみんな松本に集結します。私たちは日帰りの登山から、2週間を超える長期縦走、沢登り、アルパインクライミング（登山とクライミング両方の要素を併せ持つ登山スタイルの一つ）…etc.と、スタイルやシーズンを問わずに山を楽しんでいます。大体年間100日ほど、多い人で120日以上は山に入っています。コンセプトは「信州を遊び尽くせ」です。



【2021年5月新人合宿にて 槍ヶ岳山頂で山岳会会歌「春寂寥」を熱唱】

Q2)活動内容を教えてください。

A) 私たちの活動の中核は、年間4回の合宿（新人合宿、夏合宿、プレ冬合宿、冬合宿）と毎週末の週末登山にあります。また、夏休みや春休みなどの長期休暇中には長期間山にこもって縦走を行いますし、海外の山へも登ります。

【合宿について】

新人合宿、夏合宿、プレ冬合宿は毎年決まった場所で、決まったメニューで行っています。もちろんすべての合宿では登山道の状況や積雪状況などを考慮して、柔軟性のある計画をその年ごとに作成しています。新人合宿では、新人は30kg歩荷で上高地の東方にある徳本峠（とくごうとうげ）を越え、その後涸沢（からさわ）で雪訓（雪上歩行や滑落停止など）、最後に残雪の槍ヶ岳（やりがたけ）にアタックします。また、生活技術を含む山での基本的な事項を習得することも目的としています。全日程で1週間の合宿です。夏合宿は立山（たてやま）連峰にある劔岳（つるぎだけ）で行われます。黒部（くろべ）ダムから50kg近い歩荷をしてハシゴ谷乗越（ハシゴたんのっこし）を超えて真砂沢（まさごさわ）にベースを張ります。その後、ハツ峰（やつみね）や南壁（なんべき）、源次郎（げんじろう）尾根など入門的な岩場で5日間ほど登攀（とうはん：険しい岩壁などをよじ登ること）をする、という内容です。プレ冬合宿は、後立山（うしろたてやま）連峰にある遠見（とおみ）尾根で行います。冬の新人合宿的な位置づけで、冬山における生活技術や雪崩搜索訓練など、冬山に入る上で必要不可欠な技術を学びます。

冬合宿については4年間の集大成ともいえる舞台なので、4年生がこだわりを持って対象の山を選びます。今年の冬合宿は剣岳の早月（はやつき）尾根に行くことにしました。年度末の総決算合宿の下降路として使用するルートなので、その偵察山行の位置づけとして計画しています。山頂から、総決算合宿での登路が一望できるので、「あそこへ行くんだ」という強いモチベーションを生み出せるような冬合宿にしたいです。早月尾根は積雪量も半端ではなく、決して容易な尾根ではありません。とくに山頂直下では視界が悪いと下降が非常に困難なルートです。冬山を始めて間もない一年生を連れていくには大きなリスクを伴う山域でもあります。今の僕たちにはどこまでできるのか、非常に良い力試しの機会として冬合宿に臨みたいと考えています。



【2021年2月 冬期中央アルプス全山縦走中の様子 空木岳をバックに朝日に照らされ登る】

【週末登山について】

基本的に週末は山に入ることを前提として年間のスケジュールを組みます。上級生がリーダーを務め、下級生の体力・技術レベルに応じた山域・ルートを設定して、そこにメンバーを割り当てていきます。そして、全員参加の月1回の総会で各ルートのリーダーが作成した登山計画書を全員で検証し、全員からの承認を受けて、学校やOB、警察に計画書を提出してようやく山に行けます。ですので、週末登山は大体2～3隊出て、それぞれが別の場所へ行きます。下級生の数に対し、上級生の数に余裕がある場合は上級生のみが編成されて、より困難なルートに行きます。他大学では計画の検討にはOBなどが関わる場合がほとんどですが、僕たちは学生のみでそのプロセスを経ているので、慎重にかつ厳重に計画と承認を行います。学生主体でやっていることで活動が自由で伸びやかなのが山岳会の特徴と言えるかもしれません。



【2019年5月徳本峠にて 穂高連峰を眺めながらエッセン（＝食事）を楽しむ】

【長期縦走とその他の活動について】

夏休みや春休みなどの長期休暇中には長期間山にこもって縦走を行います。しかし、大体の人はこれだけでは飽き足らないので、平日に終日授業が無い日は山や岩場に行きます。午前中に授業のない人は朝学校が始まる前に北アルプスの山を登って午後から授業を受けるということもやったりします。メンバー全員が山に対して情熱を持っており、純粋に山にフォーカスできる環境がなんとも心地よいです。

【信州以外での活動について】

活動の範囲は信州にとどまりません。私自身も2年生の時にアメリカのヨセミテ国立公園へクライミングに、昨年は北海道の利尻山へ遠征に行きました。私が1年生の時の先輩方もヒマラヤやペルーアンデスへ遠征に行っており、とても刺激を受けていました。海外遠征は基本的に、行きたい部員が計画し、OBの方々からのご支援・ご協力を受けて、実施します。入念に下調べを行い、必要な装備などをそろえて臨みます。もちろん必要なトレーニングも行います。長い歴史や伝統がありますので、初登記録やヒマラヤでの先駆的な登山など実績は数知れず。そんな偉大な先人たちが培ってきた伝統や山に掛ける強い意志に大きな刺激を受けながら、そしてこの山岳会で山に挑戦していることに誇りを感じながら活動しています。



【2021年5月新人合宿にて 残雪の残る涸沢で雪上訓練する様子】

Q3)今年新しく始めた活動があるとのことで、そちらについて教えてください。

A)信州大学山岳会主催で「学生クライマーズミーティング」を企画しました。これは全国の大学山岳部に呼びかけて、上高地・穂高岳連峰に集い、一緒にクライミングしたり部の現状について情報交換したりして、大学生のクライマーが交流するというものです。しかし、昨今の状況により、オンライン上で来年度のミーティング開催に向けて具体的な議論を交わすことまでしか叶わず、実現にこぎつけませんでした。このミーティングが今後、同世代のアルパインクライマーが交流できる場になっていけるよう、来年度開催をリベンジしたいです。

Q4)今後力を入れていきたい活動を教えてください。

A)山岳会としては、本年度は特に2021年度総決算合宿にフォーカスして活動をしています。私自身4年間で最後の合宿となるので、リーダーとして山岳会全体で何か大きなことをやりたいという思いもあり、この合宿の成功に向けてエネルギーを注いでいきたいと思っております。当初の予定では、年末に行われる冬合宿として20日間で北アルプス北部の奥大日尾根（おくだいにちおね）～別山尾根（べっさんおね）を経て、劔岳（つるぎだけ）へ行く計画でしたが、年末年始の気象条件の悪さと1年生の経験の少なさを考慮して、この計画を年度末に延ばし、『2021年度総決算合宿』という形で行うこととしました。目標は当然対象となる山の登頂および行程の完遂ですが、一番大事なことは全員が生きて帰ってくることです。これは合宿に限った話ではなく、すべての登山がこの通りです。



【2020年8月夏の長期縦走にて 東鎌尾根での一コマ】

今回のインタビューで山岳会の皆さんの山へかける情熱のほどを垣間見ることができましたが、季節を問わず山に真摯に挑み続ける姿勢は素晴らしいと思いました。山の事故には十分気を付けて山への挑戦を思いっきり楽しんでください。この度はインタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

信州大学サポーターズクラブ【信州の風景】第100号

釈尊寺までの参道は、布引溪谷の中の山道に階段などが整えられています。訪れたのは11月上旬でしたが、葉が緑色から黄色に変わり始めていて、季節の移り変わりを間近に感じることができました。



20分ほどで本堂に辿り着きます。こちらは本堂から観音堂と浅間山を臨んだ一枚です。



下の写真は観音堂から本堂を臨んだ一枚です。



紅葉の中に静かに佇む様は、そこだけ時間が止まってしまったような清閑な空気に包まれていました。今回は紅葉の時期に訪れましたが、新緑の芽吹く4-5月に訪れると秋とは全く異なる、爽やかな新緑の景色を楽しめると思います。機会があれば1度訪れてみてください。